

特集 たけはら魅力再発見

Vol. 2

第2回目となる今回は、広島県無形民俗文化財に指定されている忠海祇園祭を支える「忠海祇園神輿保存会」の代表の大本護さんにお話を伺いました。

●忠海祇園祭とは・

江戸時代後期から続き、商売繁盛や無病息災を祈願する忠海祇園祭は、重さ600キロもある神輿を左右に傾けたり、空中高く突き上げたりする荒々しく勇壮な回し方が特徴的なことから、広島県無形民俗文化財に指定されています。

その年の20歳になる男子が、輿守(こつ)さんとして、先輩の祭領や相談役の指導のもと、足洗い、七日祇園、祇園祭と行事を進めていきます。祭礼当日は、鉢巻き、法被、白足袋の出で立ちで、法被の背には、大小様々な猿のぬいぐるみをつけており、それを取った人は、一年間無病息災であるといわれています。

●忠海祇園神輿保存会の取組～後世への継承～

忠海祇園神輿保存会は、祭りを終えた20歳の人々が会員となる仕組みになっており、現在は約70人います。月1回、約15～20人が集まり、祇園祭の準備等について話し合います。一昨年は新型コロナウイルスで開催を中止にしましたが、やはり20歳は人生に一度しかないので、親御さんに相談し、去年は20・21歳の男子が神輿をまわしました。今年も7月17日に新型コロナウイルス対策で規模を縮小して行いました。

少子化により輿守さんは年々減少しており、昔と同じように祭りを行うことは難しいですが、やり方を変えたり、工夫しながら後世へ受け継いでいきたいと思えます。

●20歳を迎えた輿守さんに話を伺いました

今年、20歳を迎えた男子は16人おり、そのうち7人が輿守さんとして祭りに参加しました。彼らの忠海祇園祭への想いを伺いました。

しろもと りょうた
城本 遼大さん

忠海祇園祭は小さい頃から見えており、一番身近に感じる地域の行事です。他の地域には同じ様な祭りがないので、参加できたことが凄く誇らしく思います。先輩に叱られることもありましたが、輿守長としてやり遂げられたので達成感でいっぱいです。来年も参加できたら良いと思います。

おかざき たいせい
岡崎 泰生さん

小さい頃から祭りに参加していて「輿守さん」という立場で自分が采配を振って神輿がまわるというのが面白そうだなと思って見ており、地元で一番熱量のある祭りなので、とても楽しみにしていました。来年は祭領補佐として参加したいと思えます。

よしかね りゅうたろう
吉兼 隆太郎さん

迫力のある大きな声を出して祭りを盛り上げる大人たちを小さい頃から見ている、私も参加したら大きな声でみんなを盛り上げようと思っていました。輿守さんとして参加すると、見るだけでは分からなかった発見がたくさんありました。来年も参加したいです。



忠海祇園神輿保存会

忠海祇園祭を広島県無形民俗文化財にすることを目的に設立され、文化財に指定された後、一旦その役目を終えた。しかし後世に受け継ぐためには、やはり保存会が必要ではないかという若い人たちの意見から、平成30年5月に再び設立した。



▲今年の忠海祇園祭に参加した輿守さん

おかざき たいせい 岡崎 泰生さん(左)、しろもと りょうた 城本 遼大さん(中)、よしかね りゅうたろう 吉兼 隆太郎さん(右)



▲采配を持った輿守さんの掛け声を合図に動く神輿は勇壮で迫力がありました。